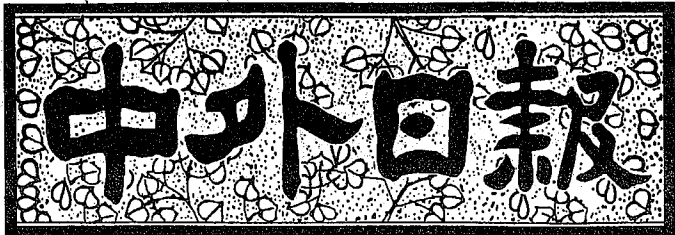


発行所
株式会社 中外日報社
©中外日報社2023

京都本社 〒601-8004 東京支社 〒113-0033
京都市南区東九条東山王町9 東京都文京区本郷4-9-13

電話 (075)671-3211(代) 電話 (03)3816-4721(代)
FAX (075)671-2140 FAX (03)3811-5222

https://www.chugainippoh.co.jp
Eメールhenshu@chugainippoh.co.jp



購読料
一月 三、二〇〇円
三月 九、六〇〇円
半年 一八、〇〇〇円
一年 三三、〇〇〇円

万が一の備え 防犯と保険学ぶ

神戸市佛連

神戸市佛教連合会(辻井定宏会長)は第109回佛教文化講座を10日に浄土真宗本願寺派本願寺神戸別院で開き、約70人が実践可能な実務を学ん

だ。

「カギの110番」の島田竜也取締役は「目からウロコの防犯対策」と題して講演した。

寺院関係者はよく「物を取られるより火事が怖い」と話すが防火対策は不十分な場合が多いという。「建物の火災センサーは主に人命救助のため。室温が上がった際に作動するので人命以外は守れない可能性がある」と指摘し、対策として、ライターの炎などに一瞬

で反心し音声が流れるセンサーを紹介した。

国内で起る侵入盗件数は、2002年の34万件から昨年は3・5万件にまで減少したが、1件当たりの被害額は増加。指示役と実行役に分かれる「特殊詐欺」など複雑化しているという。「あなたが泥棒をしなければならぬ状況にあったら、どんな場所を狙うか。どんな場所は嫌か」と会場に質問を投げ掛け、犯罪を企図する人の気持ちで考えることが防犯上大切だとした。

姫路市内で約70年続く保険の代理店「ヤン」の山田勝正代表は「寺院に特化した保険はない。自身のお寺の地理的条件や守りたいものは何かを熟考し契約を考えてほしい」と助言した。更新にきた保険の担当者にも、自分の契約内容を失念したまま「去年と一緒にいいよ」という返事をしていないか、檀家との付き合いで条件に合わない契約がそのままになっていないか、確認を促した。

「万が一のときに補償が出ないならお金の無駄遣い。保険を掛けるということは、それだけのものを守っていかねばならないということ。参拝者や設備の安全を確保しつつ、信仰の拠り所となるお寺を守る保険についても考えてほしい」と事前の備えの大切さを訴えた。

(磯部五月)